

市民協働関連補助金制度開催時における意見集約

小城市市民協働指針について(意見交換)

Q1.協働という言葉は、分かり難いや押し付けに聞こえる。協働について、どのような表現の仕方が理解されると思いますか？	<p>“参加”も難しい “加勢”</p> <p>となり近所の子供への声かけも減ってきている。“助け合い”としてとらえれば?</p> <p>“やりがいをもたせる” 生きがいを求める人が地域にいる</p> <p>“生きがい・やりがいのもてる仕組みづくり” モチベーションを持ち続ける活動へ一人でも多くの人が“言葉”を知る。 (小さな集落で“協働”という言葉を知っている人は、1割もいないのでは)</p>
--	---

Q2.協働を進めるために、市役所はどうすべきと思われますか？	<p>行政と気楽につき合いたい。お互いに近寄る。</p> <p>各課がもっと連携をとるべき。</p>
--------------------------------	--

(関連意見)

協働について	まちづくりは、協働がないとやっていけない。
--------	-----------------------

職員の意識改革について	職員も地元のイベントに参加する等温度差を解消すべき。
-------------	----------------------------

交流拠点について	<p>情報交換、提供の場があればと思う。</p> <p>いろんな団体の人達が使える場所を立ち上げるのが協働のスタートではないかと思う。交流拠点があれば、“動きやすい”“言い易い”、相談体制を確立すべき。 情報センター的仕組みづくり(キーマンの設定が必要)</p>
----------	---

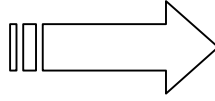
出会いの場の設定について	<p>市民、団体、行政が意見交換できる場づくりが必要。</p> <p>交流会を実施し、知恵をいただきたい。(ざっくばらんに話をしたい。)</p>
--------------	--

情報収集及び提供について	<p>市民は、市内にたくさんの団体があることを知らないと思う。情報を素直に遠慮なく(フランクに)流したらどうか。</p> <p>かたよった人からではなく、いろんな事業所からの意見を聞き出す。</p> <p>市民の皆さんと共有できる情報収集のための掲示板的なものがあればと思う。(公民館などへのメールボックスの設置、情報コーナーの設置)このようなことから、団体活動が見え、市民の意識も変わってくると思う。</p> <p>市報はみられていない。 テレビを見る方が簡単。 ホームページにも“団体活動の広場”的なものを作る。</p>
--------------	--

その他意見	<p>行政に甘えるのではなく、自分達でできることは、自分達で。</p> <p>説明会が開催され、情報を得られたことは良かった。</p> <p>市全体でどういう取り組みをしているのか、何を目指しているのかが分からない。市民もそうだと思う。</p> <p>団体同士の連携、ネットワークを支援していただきたい。</p> <p>みんなが一緒になってできることから取り組むことが出来ればと思います。 (底辺にまでおりていって拾いあげる)</p> <p>実践と勉強にギャップを感じる。(勉強会は、きれいごと) (考えるより活動)</p> <p>社協と市の協働の関係が分からない。</p> <p>取り組んでいる内容が、どう協働に繋がっていくか分からない。</p>
-------	--

裏面をご参照ください。

団体等の感想と現状について



それらからみえてくる対策等

市役所の職員も、もっと市民と活動すべきだと言いながら、入って来られると「市役所の人」という目で見ると市民にも悪いところはあると思うし、そういう市民の目が気になっている職員もいると思う。

団体の人数が集まらない。人が減っている。ボランティアということや資金の件でつかれてきている。

活動したいと思っている人はいるので何回もプッシュして見るべき。

補助がないと活動できない。多くの人が活用できる補助を。

合併して組織が大きくなり市役所から出て来てくれなくなった。仕事抜きでまちおこしに関わってほしい。棒おどりへの女性職員の参加も同じ。

NPOのノウハウを知りたい。NPOでのメリットが見えない。

実践されている人との情報交換、勉強会等の開催

ここに来れば気軽に相談できるという場所がほしい。

生活情報紙「月間ぷらざ」の裏のようにフランクに話せる、書ける紙面

市民が気軽に情報発信できる場

ボランティア活動に資材の支援が不十分